

令和元年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

志摩市地域公共交通会議

平成19年4月1日設置

離島航路運営費補助事業 平成30年6月20日 確保維持計画策定

1.協議会が目指す地域公共交通の姿 (plan)

市内公共交通の主な概要等



■■■■ 鉄道

- ・近鉄志摩線が運行。(9駅)
- ・主要駅:志摩磯部、鵜方、賢島

—— 路線バス

- ・御座線、宿浦線、伊勢五ヶ所線、安乗線、志島循環線、スペイン線

—— 磯部地域予約運行型バス

- ・うみルートとやまルートの2路線が運行。
- ・定時定路線のデマンド交通。

—— 航路(補助航路:英虞湾定期船和具航路)

- ・有人離島である間崎島及び渡鹿野島と本土をそれぞれ結ぶ航路が運航している。
- ・和具～賢島航路(間崎島含む)及び浜島～御座航路は指定区間となっている。

- 病院(1:県立志摩病院 4:志摩市民病院)
- 商業施設(5:イオン阿児店 6:プラント志摩店)
- 観光地・観光施設

1.協議会が目指す地域公共交通の姿 (plan)

志摩市地域公共交通網形成計画の概要 (計画期間：令和元年度～令和5年度)

計画が目指す将来像

住む人のだれもが、いつまでも、安心して自由にでかけられ、訪れた人がみな、まちじゅうを自由に巡り、自然やひとの魅力にであえるまち

計画の基本方針

地域特性と住民のニーズに対応した、持続可能な公共交通システムの実現
観光との連携による公共交通の利用促進
公共交通を維持するために住民・事業者・行政との協働を推進する仕組みの構築

重点施策

MaaS構築による公共交通の再生
阿児地域生活路線(安乗線及び志島循環線)の再編成
英虞湾定期船の観光客の利用促進・・・補助航路

2. 計画の達成状況の評価に関する事項 (Plan)

■ 現状値及び目標値

地域公共交通網形成計画の目標

指標	現況値 (平成30年度)	中間目標値 (令和3年度)	目標値 (令和5年度)
幹線の利用者数	586,178人	590,000人	600,000人
支線の利用者数	51,722人	52,000人	53,000人
公共交通空白地の 比率	29.6%	20%	0%
公共交通で来訪可 能な観光地の入込 客数	1,836,392人	1,900,000人	2,000,000人

生活交通確保維持改善計画の目標

志摩市民及び観光客等の利用人数を16,000人以上

3.目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容 (Do)

■ 地域公共交通網形成計画に記載されている主な取組み

MaaS構築による公共交通の再生

- ・令和元年6月25日、近鉄GHD(株)と連携協定を締結し、第1フェーズ(10月～11月)、第2フェーズ(1月～3月)において実証実験を開始した。

主な実施項目(11月現在)	概要	主な乗降ポイント
オンデマンドバス	交通結節点から観光地を結ぶデマンドバスを運行	鵜方駅～横山展望台 大王崎～ともやま公園
相乗りタクシー	35か所の乗降ポイントを設け、相乗りタクシーを運行	市内主要駅・スペイン村・志摩市民病院
マリンタクシー	英虞湾内に11か所のポイントを設け、マリンタクシーを運航	賢島港・志摩ベイサイドテラス・志摩自然学校

阿児地域生活路線の再編成

- ・志島循環線及び安乗線については、重複したルートが存在しているため、今後の人口減少を視野に入れ、効率的で持続可能な運行形態を検討し再編を行う。

英虞湾定期船の観光客の利用促進(補助航路)

- ・MaaSの実証実験により、英虞湾定期船の観光航路としての認知を高め、観光客の利用を促進する。

参考：間崎島島民にとっては、唯一の生活交通手段であるため離島住民への運賃補助を行っている。(平成30年度島民割引利用実績：2,850人)

4. 具体的取組みに対する評価 (check)

地域公共交通網形成計画に記載されている取組に関連する主な指標の評価

指標	実績値 (平成30年度)	実績値 (令和元年度)	目標値 (令和元年度)	目標値 (令和3年度)	考 察
幹線の利用者数	586,178人	571,000人 (未達成)	587,452人	590,000人	幹線・支線ともに約1万人の減少になっている。市内観光客の利用促進に努めたい。
支線の利用者数	51,722人	42,417人 (未達成)	51,814人	52,000人	

地域公共交通確保維持改善計画の指標の評価

指標 (賢島～和具航路)	実績値	目標値	考 察
市民および観光客等の利用者数 (定期客・島民除く)	14,906人 (未達成)	16,000人以上	伊勢志摩サミット開催から約3年が経過し、サミット開催地及び英虞湾定期船の拠点である賢島への来訪者の低下が原因の1つと考 えている。 近鉄賢島駅利用者数前年度比-5%

自己評価を行った会議: 志摩市地域公共交通会議(全体会)

令和元年12月4日 10時から

MaaS構築による公共交通の再生

課題

- ・MaaS実証実験(第1フェーズ及び第2フェーズ)での運用面等の課題を把握する。

対応方針

- ・実証実験を踏まえ、多くの観光客等に利用していただけるよう、システムなどを構築する。

阿児地域生活路線の再編成

- ・地域公共交通網形成計画を今年度8月に策定したため、現在、課題の把握及び施策の実施について事業者と協議を進めている。
- ・路線の再編成については、商業施設や病院等への乗り入れを含め、効率的で持続可能な運行形態を目指す。

英虞湾定期船の観光客の利用促進

- ・阿児地域生活路線の再編成と同様に、現在、課題の把握及び施策の実施について事業者と協議を進めている。
- ・英虞湾定期船の観光客の利用促進については、観光客への認知度を高める施策を事業者と検討している。

令和元年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

志摩市地域公共交通会議

平成19年4月1日設置

離島航路運営費補助事業 平成30年6月20日 確保維持計画策定

1.直近の第三者評価の活用・対応状況

直近の第三者評価委員会における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
<p>今後は、さらなる観光客の利用者増のため、観光資源を活用した観光誘致等観光施策に取り組んでいくとともに、無料Wi-Fiの導入、案内標識・ホームページの多言語化等訪日外国人旅行者の受入環境整備を促進し、観光客の利用者が増加することを期待します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客の周遊性を向上させることを目的とし、近鉄グループ各社や三重県とともに志摩MaaS協議会を設立し、MaaS実証事業に取り組んでいる。 ・観光客のまちあるき環境の充実を図るため、AIを活用した観光案内の導入のほか、主要駅周辺における、デジタルサイネージ等の案内板の設置等を実施。 ・外国人観光客の受入環境整備として、市内事業者の実施する多言語化、Wi-Fi整備等の事業に対して補助を実施。 ・すべての旅行者の宿泊環境の向上を目的とし、市内施設の実施するバリアフリー改修工事に対して補助を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度実施している観光客の動向調査、ニーズ調査結果を踏まえ、観光資源の磨き上げや、未活用資源を活用したコンテンツ造成などの取り組みを実施予定。 ・周遊性のさらなる向上を目指し、MaaSを組み込んだ旅行商品の造成等を実施予定。 ・多言語化、Wi-Fi整備、バリアフリー化など、観光客の受入環境整備に向けた取り組みを継続し実施予定。

2.アピールポイント

志摩MaaS実証実験の実施

拠点と観光地を結ぶ
デマンド型バス



志摩市全域を対象とした
デマンド型(相乗り)タクシー



交通結節点と主要宿泊施設を結ぶ
巡回バス



英虞湾の各地域を結ぶ
デマンド型マリンタクシー

